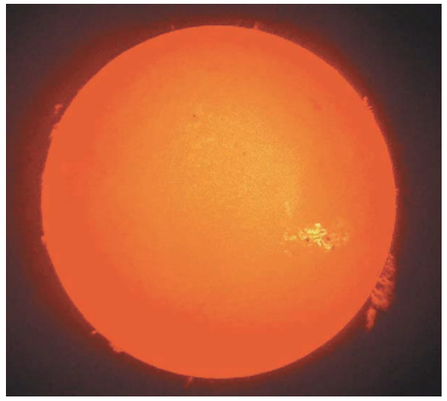
宇部日報　2024年〈令和6年〉　6月12日 水曜日

「ほっとやまはく」タイム㊻

オーロラが見えた



5月10日の太陽の活発な様子（太陽望遠鏡を使って当館撮影）

日本でもオーロラが見えた！

5月11日、日本の夜空は珍しい自然現象であるオーロラに彩られました。ニュースで多く取り上げられたので、ご覧になった方も多くいらっしゃると思います。この日、県立山口博物館は天体観望会を開催予定でしたが、中止となりました。オーロラが観測される前の8日から11日にかけて、太陽表面で大規模なフレア（爆発現象）が連続して発生しており、地球に強い太陽風が届くことで通常より低緯度でオーロラが観測されるという予報が出されていました。当館でも太陽望遠鏡で太陽の活発な様子を観測していました。そして11日から12日の朝にかけて、北海道をはじめとする北日本各地、南は兵庫県で赤や紫色の幻想的なオーロラが空を染め上げる様子が目撃され、多くの人々がその美しさに魅了されました。日本国内でのオーロラ観測は非常にまれであり、この日のオーロラは多くの人にとって貴重な経験になったことでしょう。

オーロラとは？

カナダなどの北極圏ではオーロラが頻繁に見え、肉眼でも緑や赤色のオーロラがカーテンのように揺れ動くさまは、とても神秘的で人々を引き付けます。オーロラは、太陽から放出される荷電粒子が地球の磁場に捕らわれ、大気中のガスと衝突することで発光する現象です。フレアによって放出される荷電粒子の塊は、地球に到達すると磁気嵐を引き起こし、オーロラだけでなく通信障害や電力網への影響など、さまざまな問題を引き起こすことが知られています。

オーロラの色は、太陽からの荷電粒子が大気中のどの成分と衝突して発光するかで決まります。緑色のオーロラは酸素分子の発光によるもので、赤色のオーロラは高高度での窒素分子の発光によるものです。北海道などの低緯度地方では、北極方面で発光しているオーロラの上部（高高度）を見ることとなり、赤色に見えるわけです。低緯度になるほど肉眼での確認が非常に難しく、写真での撮影が主な観測手段となります。

カナダでのオーロラの様子（筆者撮影）

実は山口でも過去に見えていた！

山口県からオーロラは見えないのでしょうか？　実は1958年2月11日に小郡町（現山口市）で、北方向の10度以下の空に色がついているのを肉眼で観測した記録が残っています。今年と同じように58年の太陽活動はとても活発で、同じ日に広島県福山市や新潟市で観測された記録があり、北海道ではカラー写真が撮られています。ひょっとしたら今年5月11日のオーロラも山口県からも見えたかもしれません。天気の悪さが悔やまれるところです。

太陽には11年の活動周期があり、来年にかけて太陽活動のピークを迎えます。まだまだ山口県でオーロラを見るチャンスがあるかもしれません。みなさんも日頃から夜空を眺め、オーロラを探してみてはいかがでしょうか。一般の方のオーロラの記録は今なお貴重です。もし皆さんがオーロラを見たら、観測時刻、方位や高さなどの広がり（星などと対比）、色彩などの情報を記録に残してみてください。あなたの観測記録が将来、科学研究の大きなヒントとなるかもしれません。

岩村和政（天文担当学芸員）

▽次回は26日です。

山口県立山口博物館
ＴＥＬ083―922―0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで。